

30111港湾海岸工事業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労働 者規 模
1	2017	11	14～ 15	砂供給設備のダンパー脇に小石が詰まった為、ダンパーが動かなくなった。詰まった小石を取り除く作業を行っていたところ、詰まった小石が外れた瞬間にダンパーが動き、ダンパーと鉄骨の間に右手を挟まれ、負傷した。	20	7	149	1～9
2	2017	10	17～ 18	作業が終了し、自社船にて帰港した。岸壁に係留するため係留ロープを岸壁に取りに行き、戻った際に、船の縁に足をかけたところ、近くを運行していた定期船の波を受け自社船が大きく揺れた。体のバランスを崩し、岸壁の通路側に転倒し右手指を負傷した。	65	2	239	10～ 29
3	2017	10	9～ 10	運搬船上でクレーンの合図中、後方に下がった際、ロープにつまづき転倒し、右殿筋内血腫、右臀部挫傷した。	38	2	379	10～ 29
4	2017	10	15～ 16	大型ブロック設置作業の際、玉掛け作業を終えた被災者が、重機の作業範囲内に入ってしまう、作業中の重機のバケット部分に接触した。	57	7	142	30～ 49
5	2017	9	10～ 11	試験礁設置工事の現場代理人であり、主任技術者である被災者は災害当日鋼製魚礁を起重機船（No38ゼンエイ）に積込中、作業写真を撮るために起重機船に乗り込もうとした、その際に起重機船の階段状になっている所でバランスを崩し転倒し、尻餅をつき負傷した。	69	1	413	10～ 29
6	2017	9	14～ 15	社員4名と015BH（回転式グラップル）（端波ブロック箇所）灯台付近にて、先の台風で流れていた草木の撤去作業	24	90	719	10～ 29

				中、社員の右手中指第二関節付近にマムシが噛みついた。				
7	2017	8	9～ 10	排水路補修工事の現場で、安全管理作業中、擁壁の幅1mの天端に土のうを設置後、その土のうにつまずき身体のバランスをくずし、高さ4.1mの擁壁伝いに舗道のコンクリート床面に滑り落ちた。	70	1	418	10～ 29
8	2017	7	8～9	現場到着（出勤）し、作業ミーティング（朝礼）後、作業を開始した。本人が倒れたのを他の作業員が発見し、救急車で病院に搬送。「急性くも膜下出血」との診断を受ける。	66	90	921	1～9
9	2017	5	11～ 12	滑走路増設工事現場で、打設した鋼管杭の杭頭処理作業のため、曳航してきた台船を打設済みの鋼管杭横に係留作業していたところ、台船が鋼管杭打設用の導杭に接触した。その際、導杭上にブルマンで固定していた導材が台船上に落下して跳ね、台船上にいた被災者に当たり負傷した。	52	4	521	30～ 49
10	2017	5	11～ 12	滑走路増設工事現場で、打設した鋼管杭の杭頭処理作業のため、曳航してきた台船を打設済みの鋼管杭横に係留作業していたところ、台船が鋼管杭打設用の導杭に接触した。その際、導杭上にブルマンで固定していた導材が台船上に落下して跳ね、台船上にいた被災者に当たり負傷した。	44	4	521	30～ 49
11	2017	4	16～ 17	ユニック車の荷台から落下し、鉄製のピンが地面にあたり跳ね返り、左足第一中足骨へあたり亀裂が入った。	55	4	521	10～ 29
12	2017	4	16～ 17	岸壁に停泊させていた起重機船内において朝からテレビを見たりして寛いでいた。夕方になって波風が強くなってきて起重機船の後方に泊めていた揚錨船をかわそうとして、係留用のナイロンロープ（約30mm径）をビットから外そうとしたときに突然に揚錨船が激しく揺れ、揚錨船のビットと係留用ロープの間に指を挟まれ、左示指先を負傷した。	34	7	379	10～ 29
				鋼矢板の水中切断作業中（矢板上部をクローラクレーン70t吊に玉掛した状態で、切断箇所上部を10cm程度残し上から下に				10～

13	2017	3	14~15	向かって切断)、下部の切断が終了と同時に何らかの要因で鋼矢板が振れて、既設鋼矢板に左手が挟まれ負傷した。	38	7	211	29
14	2017	3	9~10	岸壁に係留している台船上にある65tクレーンのウェイト部分の巻上ドラムにおいて、乱まきワイヤーの点検作業を行うため、同ウェイト部分に上がり安全帯をしようと支柱にかける際、ワイヤーフックにつまずきバランスを崩し、ウェイト部分に倒れこみ2m下の台船デッキに落下した。ウェイト部分に倒れた際に両脚を打撲し、台船デッキに落下の際にはデッキ上にあったH鋼で左手を強打し骨折した。	26	1	212	10~29
15	2017	3	10~11	電動工具で鉄筋を30cmに切断中、鉄筋切断後の切削屑を研磨する時に誤って回転中の砥石に接触し、右手二ヶ所を負傷した。	79	8	153	1~9
16	2017	2	14~15	工事現場製作ヤードで、型枠組立作業をしている時、ボルト穴を合わせる為、バールで調整していた、安全帯を掛け忘れており、勢い余って高さ3.6m下に後向きに転落し下半身を強打した。	51	1	418	10~29
17	2017	2	10~11	マイナス4m岸壁上で、防舷材取付作業をしている時、バックホウの操作をしていた者が上半身を動かし左右確認の時、肘がレバーに接触し、バケットが50cm~60cm落下しバケット下の作業員に接触した。背中を強打し顔面及び胸を上部コンクリートに強打した。	19	6	142	1~9
18	2017	2	10~11	マイナス4m岸壁上で、防舷材取付作業をしている時、バックホウの操作をしていた者が上半身を動かし左右確認の時、肘がレバーに接触し、バケットが50cm~60cm落下しバケット下の作業員に接触した。背中を強打し顔面及び胸を上部コンクリートに強打した。	25	6	142	1~9
				該者は、団体の従事者として従事しており、事故当時は作業				

19	2017	2	9~10	使用船の片付け作業中、船尾に取り付けていたロープリールの取り外しの為、左舷側陸上から車輛ユニックで吊り上げていたところ、吊り上げに使用していたロープが切れ船体甲板から約150cm位の高さからロープリールが斜めの形で真下の甲板上へ落ち、その勢いで右舷側に転がり右舷端にいた該者の胸辺りがロープリールと右舷船体に挟まり負傷したものである。	60	4	372	—
20	2017	1	9~10	被災者他3名は、鋼管杭に据え付ける鋼製丸蓋を引船から起重機船上に移動しようとした。事前準備として岸壁から引船へ仮置きする際に鋼製丸蓋は重ねて（Φ800mm×17枚、Φ740mm×27枚）置き、すぐに吊れるようスリングベルトを大目にしていた。引船が起重機船に接岸後、被災者はクレーンオペレーターに合図を送り、スリングを用いて地切りした。被災者は玉掛後、約3m離れ次の作業に移っていたが、高さ約2m付近で荷崩れを起こし、一旦引船甲板上に落下後崩れ、被災者の左足に当たり負傷した。	69	6	372	10~29
21	2017	1	10~11	錆打ち作業中、腰に違和感を覚え、激痛が走りその後立てない状況となった。	44	19	921	—
22	2017	1	8~9	被災者は、防潮堤（高さ4.31m）の先端において、壁のコンクリートを打設終了後、次のコンクリートで打設するため、積雪でロック（勾配にて）していた中段の位置程度まで歩き進んだところでバランスを崩し、右足を捻り左足外踝骨折と左足踝にひびが入った。	67	2	417	—
23	2017	1	11~12	防潮堤災害復旧工事現場で、防潮堤背面にバックホウを用いて盛土作業中、退避していた被災者（防潮堤端部の均し作業）が、まだバックホウが後退してこないだろうと思い後退路に入り、足を滑らせ転倒したところ、後退してきたバックホウに足を踏まれた。	64	7	142	—

24	2016	12	9～10	製作ヤード内にて、消波ブロック2個の型枠取り外し作業をクローラクレーン200t吊りを使用して、3名1組で行っていた。型枠1個目の取り外し完了後、2名は取り外した型枠の移動作業に向かったため、被災者は2個目の下部型枠の取り外し準備に向かい、パイプサポートを取り外した。型枠は転倒防止のボルトナットも外れていたため、型枠が突然落下し、被災者の右足安全長靴鉄板部付近に当たり、足指の骨折および裂傷となった。	62	4	418	1～9
25	2016	12	16～17	事務所内において、現場で作業を終え、一旦事務所に荷物を取りに戻った後、帰ろうとして2階から1階へ階段を下りていたところ、段を踏み外し転落した。その際、左膝を負傷した。	45	1	413	1～9
26	2016	12	9～10	運搬路の横で地面に落ちていたナイロンリングベルトを拾う際、被害者の作業していたすぐ横にメッシュパレットが配置しており、中には先の尖った木材が飛び出したまま放置されていた。パレットのすぐ横にベルトが落ちていたため、拾って他の社員に渡そうと振り返った際、木材で目を負傷。	31	3	522	10～29
27	2016	12	14～15	基礎ブロックの埋め戻し作業中に、邪魔な石を手作業で取り除く作業を行っていたところ、被災者が傍に停車中のバックホウに気付かずに、取り除いた石を放り投げようとして、バックホウのバケット部に左手を強くぶつけ負傷した。	39	3	142	1～9
28	2016	12	7～8	トンボクレーンで斜材の取り付けをしている時、斜材を所定の位置に合わせようとバールで微調整しているところ、ワイヤーに張力が掛かっていることに気付かず、斜材の上部の掛かりが外れた反動で、被災者の胸部に激突し、背後に飛ばされた。	69	6	521	1～9
				漁港内にて、水中コンクリート型枠の足場から梯子を伝って既設防波堤におりようとした。梯子上に別の作業員がいたの				

29	2016	12	9～10	で脇を通り抜けようと体を半身にしたとき、救命胴衣の腰紐が手すりの単管クランプに引っかかっていたことに気付かず、足を踏み出したため、体の自由が奪われ宙吊りとなった。救命胴衣の腰紐が伸びきりファスナーも開いてしまい、海中に落下。その際、右手右肩が救命胴衣に引っかかり、体重がかかって右肩を脱臼した。	29	1	411	50～99
30	2016	12	11～12	潜水土及び潜水補助員計3名が捨て石均し作業を行っていた。また、隣り合わせでバックホウにより重機用足場の碎石補充作業が行われていた。潜水補助員が重機用足場端の陸上で、均し位置の確認をテープを引いて行っていた際、バックホウのキャタピラが敷鉄板に引っ掛かり約1m押されたため、潜水補助員の足が敷鉄板に挟まれ負傷した。	46	7	142	1～9
31	2016	11	8～9	基礎捨石の荒均し作業中に石を移動中、所定の位置に据えようとし間詰め石を取ろうとした所、上部から約200kgの石が落下し、手を挟まれ左手の第3関節骨折及び右手中指を裂傷した。	57	4	523	1～9
32	2016	11	11～12	消波ブロック製作のコンクリート打設において、作業足場間に仮設通路を設置して渡っていた時、片側の仮設通路が作業足場からはずれ落下し、仮設通路と一緒に落下した際、左膝を負傷した。	44	1	411	50～99
33	2016	10	14～15	岸壁に整備係留中の作業船から搬出した残材をダンプトラックに積み込み、倉庫に運搬中、道路を南進し、信号の無い三叉路交差点に一時停止側から右折のために進入した。右側を確認した時、左折するための大型車が一番左側車線にいたが左右確認後、中央の車線に進入したところで、右側から直進してきたLPガス運搬車と衝突し被災した。	44	17	221	50～99
				三脚ブロック2段重ね、高さ3.85mの箇所に台風接近の為、仮置きした鉄筋を片付け作業後、開口部に土台及び転落防止の				

34	2016	9	8～9	ために据え付けておいた板を撤去しようと片側を持ち上げた際、板が前方に滑り、被災者が思わず一歩踏み出し、開口部から転落し、脇腹を強打した。	52	1	418	10～ 29
35	2016	9	15～ 16	バックホウと相判作業で護岸ブロック2次コンクリートの打設作業を行っていた。その際、バックホウがミキサー車から投入した生コンクリートの入ったバケットを旋回中、後方のキャタピラが浮いた状態で前方に傾き、バケットとブロックの間に左足を挟まれた。	54	6	142	50～ 99
36	2016	8	9～ 10	型枠脱枠作業中、角鋼管を取外して梱包小運搬中に、遮熱シートの上で足を滑らせて転倒した。その際に、右手で体を支えようと地面に手を付いた時に、右手首を負傷した。	62	2	379	10～ 29
37	2016	8	9～ 10	工場の片付けを行うため、土場に置いてあった鉄板で作った車路に体を傾けたところ、コンクリート片の上に乗っていた不安定な状態であった車路が左にすべり、思わず反対側の車路に左手をかけたために、左手親指が鉄板にはさまれた。	38	7	391	10～ 29
38	2016	8	2～3	港において、船内外機上にいた被災者が台船から荷物を受け取り、後ろに下がろうとした時に、足元のしきりにつまずき後ろ向きに転倒した。その際に、首を打ち骨折した。	66	2	239	10～ 29
39	2016	8	11～ 12	防波堤上の上部工の型枠資材の片付け作業を行っていた際に、起重機船で上部工、型枠資材を積み込むため、ナイロンスリングでセパレーターを約2mの高さまで吊り上げたところ、ナイロンスリングが破断し、落下したセパレーターを避けようとした被災者がバランスを崩し、防波堤上から消波ブロック上へ転落した。	48	4	611	50～ 99
			11～	トレーラーでブロックを仮置ヤードへ運搬、荷台上4人の玉掛け者にてブロックを仮置ヤードへ玉掛け、荷卸しを行った。その後、3人は荷台より降り、被災者1名が荷台上のゴム製保				50～

40	2016	7	12	護マットの位置修正のため、荷台上に残っていたところ、トレーラー運転手がブロックが吊り上げられたことで荷台上に誰もいないと判断し、トレーラーを発進。驚いた被災者は振り落とされると思い、荷台から飛び降り、被災した。	60	3	417	99
41	2016	6	14～ 15	防潮堤の被履ブロック最下段の据え付け作業を行っていた。金テコを使用して微調整をしていたところ、テコの支点としていた止めコンクリートの角が欠け、金テコが外れてしまったため、後方に勢いよく転倒した。転倒の際、背後にあった捨石に後頭部があたり被災した。	44	2	418	30～ 49
42	2016	4	14～ 15	ケーソン据付作業が終わり、ケーソン上の機材の撤去作業を行っていた。機材のうち、発電機をケーソン上から撤去し、起重機船甲板に積み込んだ。吊降し位置が悪かったため、再度地切りし旋回したところ、甲板上の資材に接触したため、荷が振れた。被災者は振れた荷を止めようと手で止めようと押さえた。クレーンオペレータは危険だと感じたため吊ワイヤを緩めた。被災者は右足を発電機の下においていたため、発電機が右足親指上にのり被災した。	22	7	352	30～ 49
43	2016	4	9～ 10	バイブロハンマーを台船上に降ろす際に補助ワイヤーが外れそうになった為、慌ててワイヤーをつかんだ際、ワイヤーが急に張ってバイブロハンマー本体とワイヤーの間に左手を挟み、右手人差し指の第2関節を負傷した。	27	7	372	30～ 49
44	2016	3	10～ 11	船内の作業にて棚を製作中にハンマーで釘を打っていたところ、棚が下にひいていた木から落ちたことにより、傾き誤ってハンマーが指に当たり被災した。	34	6	364	10～ 29
45	2016	3	10～ 11	港で既設車止めをブレーカーで破碎の作業中に、ブレーカーの振動の勢いで手元が狂い自身の右足甲に落下し、負傷した。	23	3	145	10～ 29
				作業を始めようとした時、ブロックの型枠上に登ろうとし				

46	2016	1	13～ 14	て、型枠上でバランスを崩し、地面に飛び、飛んだ際、着地の衝撃で左足踵に部分亀裂が発生した。	42	3	419	100～ 299
47	2016	1	9～ 10	台船上で盛土材の荷卸し作業中、台船に溶接で固定していた敷鉄板にバックホウのバケットの爪が引っ掛かり、敷鉄板がめくれ、敷鉄板の下に盛土材が入った為、被災者がそれを取り除くために独自の判断でバケットの爪で敷鉄板を少し上げ、隙間を作り、手で取り除いていたところ、敷鉄板がずれ、左腕が鉄板に当たり、左腕を被災した。	64	4	521	10～ 29
48	2015	12	13～ 14	年末の後片付けをしていた所、クレーン付台船上で重い資材の一部を陸揚げした時に、玉掛者が玉掛中、玉掛具（吊り具のフック）と鋼材の間に右手の人差し指を入れた状態が玉掛合図者から死角となり、指が挟まれた状態だと気付かずに、クレーン運転士に吊り上げの合図を出した。クレーン運転士が吊り上げを行なったため、玉掛者が玉掛具で右手の人差し指の付け根を負傷した。	42	7	372	10～ 29
49	2015	12	11～ 12	作業員1名がトラックの荷台にて最終7段目の積込作業準備中に、荷崩れが発生した。それを止めようとした際、荷崩れ方向の立入禁止区域に入ってしまう、反動で車上から転落。落下してきた荷に足を挟まれ、負傷した。	53	5	611	1～9
50	2015	12	11～ 12	仮設工のダウンザホールハンマによる堀削からH鋼建込み作業中に、雨脚が強くなってきたので、お昼休憩を前に少し早めに午前の作業を終了し、片付け・整理整頓作業中にぬかんだ地面に足をとられ、仮置きされていたH鋼に転倒し、負傷した。	43	2	417	1～9
51	2015	12	7～8	防波堤改良工事において、上部工打設作業に伴う、起重機船の係船作業を行っていた。起重機船の作業箇所へ配置するため、クレーンの作業エリアで誘導指示をしていた。ウインチ	70	4	379	1～9

				巻上げ時、係留ロープを連結していた結び目部分が切れて、被災者の右足のすねに一方の係留ロープがぶつかり、転倒した。				
52	2015	11	13～ 14	走行中、交差点に差しかかり直進で交差点に進入したところ、左側から直進してきた大型貨物自動車が、当方車助手席側へ衝突した。	44	17	231	1～9
53	2015	11	13～ 14	ケーソンの4層目コンクリート打設中、コンクリートの供給が一旦途切れたため、バイブレーター担当の被災者は、一時他の作業に従事した。打設が再開し、配置へ戻る際、小走りになり、バイブレーターコードに躓き転倒した。	22	2	379	50～ 99
54	2015	10	8～9	資材を積込作業中に材料を運搬、係留用のロープに足を掛けてつまずき、ひざからコンクリート製の床に着地、左ひざに体重がかかり骨折した。	70	2	379	1～9
55	2015	10	10～ 11	クローラクレーンのブーム組立作業中、他の作業者が、ブライダルを取り外す為、内側よりピン抜き作業を行っていたところ、被災者がその作業を手伝おうとペンダントワイヤーロープを手で引っ張った。ブライダルピンが外れた際、ペンダントワイヤーが元に戻り、ロープに引っ張られ、伏した状態のブーム上より下部の敷鉄板に転落し、頭部他を打ち被災した。	67	1	212	30～ 49
56	2015	9	16～ 17	型枠設置作業中、型枠内部のパレーターの寸法を測るためパラペット上部から下へはしごを取りに行こうとし、型枠の天端に幅20cm、長さ2m、厚み3.5cmの木製の板を仮設渡しとして設置し渡ろうと足をかけた時、板が割れ、約3m下の鉄筋の上まで滑り落ちて左足を骨折した。	55	1	416	1～9
57	2015	8	19～ 20	作業船の航行に支障となる海面の流木を交通船上からロープを使って移動していた際、何らかの原因で海中に転落した。	44	1	239	100～ 299
				台船接岸時、台船側面に緩衝材として吊り下げたあるタイヤ				

58	2015	7	17～ 18	に乗っていたところ、接岸の衝突でバランスを崩し岸壁へ落ち、右踵を負傷した。	65	1	239	30～ 49
59	2015	6	13～ 14	クレーン付台船のコーミングを修理中に300H形鋼を重ねて垂直面を合せる為ハンマーで叩いた際、300H形鋼が落下して、被災者が300H形鋼の内外側を手で押さえていて、落下した300H形鋼同士の上に右人差し指を挟んでしまった。	61	4	212	50～ 99
60	2015	6	14～ 15	資材置場にて、敷鉄板（1.5m×6m、重さ1.6t）を積重ねる作業をした際、吊上げる鉄板に玉掛けを終え、次に操作者がクレーンで吊上げ操作を始めたため、作業の補助をする位置に移動しようと後方に積んである鉄板の方を向いたところ、ワイヤーがはずれ、鉄板の一方の辺が地面に着いて倒れて来た。後ろから倒れてきた鉄板と前方の積んであった鉄板の間に左太ももを挟まれ受傷した。	37	4	372	10～ 29
61	2015	5	11～ 12	船舶整備の為、起重機船に向かう際岸壁からボートに乗り込む時に潮位が低くボートと岸壁に高低差があったので、飛びうつった時に、足をすべらせて転倒し左の脇腹を強打した。	45	2	416	30～ 49
62	2015	4	17～ 18	潜水土によりスリットケーソン桁の通水孔をモルタルにて閉塞する作業をしていた最中に、何らかの原因により、潜水土のフーカーマスクが、通水孔（Φ200）へ吸い込まれた。潜水土は潜水用マスクが外れ、フーカーホースを固定していた腰部分を通水孔に引っ張られる態勢で動けなくなった。	34	10	713	10～ 29
63	2015	4	14～ 15	防潮堤の場所打杭周辺の床掘削作業中、上部にいるバックホーの合図の元に作業開始することになっていたが、吊り上げ準備や合図をしていないうちに法面に近づいてしまい、大型土のう設置面に石が転がっていたため取除こうと不意に近づいたところ、法面が崩落し被災した。	51	5	711	10～ 29
				資機材置場で片付け及び次の現場の準備作業中、上棚に置い				

64	2015	3	13～ 14	てある5kgの足場材を取るため、50cm程の高さのブロックに 乗り、資材を手で取ろうとしたとき誤って体のバランスを崩 し転倒した。	74	1	371	10～ 29
65	2015	3	12～ 13	移動途中2tトラックの荷台上で何か転がる音がするので、目 的地途中の駐車場で停車し、荷台に上がり確認・点検後、荷 台に手を掛け1.3mの高さから飛び降りた際に体勢を崩し着地 したため負傷した。	56	3	221	10～ 29
66	2015	2	11～ 12	六脚ブロック製作ヤード内で、可搬式足場から、型枠の上に のってコンクリート打設していた。コンクリート打設が終わ り、移動のために型枠から動こうとしたところ足を滑らせて 落下した。	52	1	411	1～9
67	2015	1	15～ 16	現場に道具を届けるために、国道を走行。現場入口を右折し ようとしたが、対向車が走行してきたので、停車していた所 に後方より走行してきた軽乗用車に追突され、そのはずみで 対向車線に押し出され、対向車の大型貨物自動車と接触し負 傷した。	36	17	231	10～ 29
68	2015	1	16～ 17	岸壁に作業船に係留作業していた時、船のデッキ上に置いて あった棒カギ（竹製）を左足で踏んでしまい、左足が前に 滑った為、右膝が落ち、右膝をデッキに強打した。	67	2	379	10～ 29
69	2014	12	15～ 16	ブロック製作工事において、フォーク（8 t）作業が終わ り、降車する際、左足を上段のステップ（H＝80 cm）に 引っ掛けた。その際、右足を伸長したまま右足で着地して負 傷した。	51	3	222	1～9
70	2014	12	7～8	海岸堤防の裏法被覆工における壁枠組立作業時に資材調達の ため基礎コンクリート先端より40cm程度低い側溝床付け面に 右足から降りた際にその足の膝を痛めた。	17	3	418	30～ 49
71	2014	10	8～9	港改修工事のケーソン製作用台船内で型枠小外し片付け中、 積み上げた型枠が荷崩れをして右すねにあたって怪我をし	65	5	522	30～

				た。				49
72	2014	10	9～ 10	倉庫解体工事において、解体後の鉄骨をばらして片付け作業中トイレに行こうと慌てて高さ1mの足場から降りる際、誤って足を踏み外し30cm位の鉄筋が出ているところで左足腿、右腕を負傷した。	63	3	411	10～ 29
73	2014	10	10～ 11	工事現場敷地内にて、4 t ユニックを使用し大型土嚢を荷台へ積み込み作業中、操作ミスにてブームを急に上げたことにより大型土嚢が揺れてしまい、アウトリガーと荷の間に体が挟まり骨折した。	51	6	212	50～ 99
74	2014	9	8～9	資機材揚重作業の為、作業船（起重機船）にて、補助ロープが撤去した車止めの残存アンカーボルトに引っ掛かっていたため、ロープを緩めるように合図したが、それと同時に補助ロープが破断し、近くの係留ロープが跳ねて被災者の左太腿に接触した。	45	4	379	30～ 49
75	2014	8	7～8	ヘリポート上ヤードにて行っていた被覆ブロック製作（コンクリート打設）作業において、コンクリートポンプ車のブーム下で、被覆ブロック型枠中央部に設置した木製足場に立ち、コンクリート圧送ホースを持って作業していたところ、突然ブームが折れた。その際、圧送ホースに激突した衝撃で木製足場から型枠内に転落し、その際型枠に頭部などを強打し負傷した。	45	1	149	10～ 29
76	2014	8	5～6	防波堤港側で、ガット船でアンカー伝 船を吊り卸し作業中、アンカー伝 船保護棒に引っ掛かったフックを外そうとして、フックと保護棒の間に手指を挟まれて負傷した。	58	7	372	100～ 299
77	2014	7	11～ 12	港内に停泊した船上で、ワイヤー交換の為、船のホールドからバケットに移ろうとした際、バケットのステップで足が滑り、ホールドの底に転落した。	27	1	229	1～9

78	2014	7	7～8	運搬業務の際、道を間違えたため、方向転換をしようとした際、誤って車輛後方より河川内に転落した。	23	1	221	1～9
79	2014	6	16～ 17	10 t ダンプトラックの荷台から昇降ステップで降りる時に足が滑り、転倒した。	64	1	221	10～ 29
80	2014	6	10～ 11	港湾内ケーソンヤードでNo 1 号函2ロット型枠組立て固め作業を行うため、梯子を使用し内型枠下部へ降りる際、足を滑らせて梯子の中段付近(高さ2m)から下段足場(鋼製布板)へ転落。第1、第3腰椎を圧迫骨折した。	45	1	371	30～ 49
81	2014	4	16～ 17	船の保安灯の交換作業で、停泊中の甲板上を移動中、足を滑らせ転倒し、舵側に係留していた船の甲板に転落し、左足踵を骨折した。	54	2	239	10～ 29
82	2014	4	8～9	漁港防砂提工事現場で、海中3m地点にコンクリートブロックを据付作業中、起重機船に搭載した空気を送るコンプレッサーの給水ホースが、排気筒と接触し熱でホースに穴があき、破損部から排気ガスが流出し潜水土が吸引し一酸化中毒となった。	29	12	514	10～ 29
83	2014	4	8～9	作業現場にて、敷鉄板の移設作業中クレーン機能付バックホウにて敷鉄板を地切した際、敷鉄板（重量1. 6 t）に土砂が付着しており吊荷の敷鉄板が回転して被災者の右足腰部に接触して被災した。	31	6	212	10000 ～
84	2014	4	14～ 15	埠頭において、台船の防弦材に用いる古タイヤ（直径155 cm、重さ200 Kg）をトラッククレーンの荷台から岸壁に降ろす際、クレーンで一本吊りされたタイヤが金具（フック）から外れて荷台に落ち、転がり、運転席後のガードとの間に腰を挟まれ、骨盤骨折を負った。	68	6	372	30～ 49
85	2014	3	8～9	防波堤上で、コンクリート打設の準備中、バックホーの排土板の上に置いてあったパレットを作業員が動かそうとして近付き、オペレーターが排土板を降ろした時、誤って降ろし過	52	7	141	1～9

				ぎた為、下にあった足を挟んでしまった。				
86	2014	3	15～ 16	がれきの片づけをした後、4 t ユニック車に乗り込もうとしてドアを開けたところ、急に風が吹いてドアが閉まり手を挟んで受傷した。	65	7	719	10～ 29
87	2014	3	15～ 16	作業船での風浪時の作業であったため、起重機船の係留作業を行った際に、起重機船側サイドロープと台付側ロープをつないだ箇所（シャックル）を着火船の係船柱に左手親指先端を挟まれ受傷した。	48	7	379	50～ 99
88	2014	3	1～2	度重なる工事施工の失敗と工程の遅れについて悩んでいた。数日後本人の所在が不明となり、連絡がとれない状態となった為、地元警察の協力のもと、搜索した結果、国道の高架下の沢に、普段着姿で仰向けで倒れ死亡していた本人が発見された。	42	90	921	1～9
89	2014	2	8～9	ミーティング終了後、各自作業配置につくため作業場所に向かう際、雑石の上は危険と思い、石の少ないH鋼（200×400×11m）の置いてある脇を歩いていたところ、一つの石を踏んだ時に石が動いて、そのはずみでH鋼が横倒しになり、H鋼と雑石の間に右足を挟まれ負傷した。	70	7	521	100～ 299
90	2014	2	5～6	4 t ユニック車を使用し鋼板を躯体に接置微調整中、吊り荷の鋼板（約400kg）が大きく振れ、取り付け治具と鋼板に左手小指が挟まれ受傷した。	39	7	379	10～ 29
91	2014	2	9～ 10	杭打ち作業で杭が斜めになったので、右手で位置を直そうと杭天端を持った所掛矢で打ち込みをする者が気づかず掛矢を下ろしてしまい、右手中指の神経を損傷した。	39	6	364	10～ 29
92	2014	1	11～ 12	港湾防波堤工事でコンクリート打節用の鋼製の型枠（サイズは数種類）組立時、ほぼ組み立っていたコンクリート打設用の鋼製の型枠（10m×0.8m）が、転倒防止用のサポー	67	5	412	10～ 29

				トの固定が不完全だったため、組立作業中の従業員の下半身に倒れ下敷きになった。				
93	2014	1	15～ 16	暖機運転中のバックホウのエンジン部分に乗り排気口に手をかざして手を暖めている時に足を滑らせて転落した。頭部外傷、外傷性くも膜下出血、右脛骨骨幹部骨折。	35	1	142	50～ 99
94	2013	12	17～ 18	檣石投入作業後、アンカー用ロープを撤去する際、係留ロープと鋼製船舶作業船側面に足を挟まれた。	40	7	239	30～ 49
95	2013	12	15～ 16	海上にある防波堤にて、コアドリル削孔機を用いてケーシングパイプをトラッククレーンで引き抜き、地盤上に仮置きする際、玉掛ワイヤーが外れ、ケーシングが被災者の足甲に接触した。	56	4	372	50～ 99
96	2013	12	9～ 10	コンクリート新設の為の枠を仮固定している横にて、鉄筋配置を行っている際、型枠が被災者側に倒れ、型枠と地盤(均しコンクリート)の間に足を挟まれた。	52	5	418	50～ 99
97	2013	12	14～ 15	パケットのふるい分け作業中、油圧ショベルを旋回させたところ、油圧ショベル後部と分別材を仕分けている被災者が接触した。	49	6	142	1～9
98	2013	10	13～ 14	ヤードにて、クレーンでシェークブロックに養生シートを設置作業中、養生シートを掴んでいた被災者が風に煽られ、7mほど持ち上げられ、落下した。	50	1	212	30～ 49
99	2013	10	16～ 17	防潮定撤去工事現場にて、重機運転席から降りる際、キャタピラの上へ足を掛けたところ、足を捻った。	43	19	921	1～9
100	2013	10	9～ 10	2 t トラックの荷台から降ろしたボンベ(重さ約60kg)を転がしていたところ、つま先に当たった。	44	4	319	50～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。